

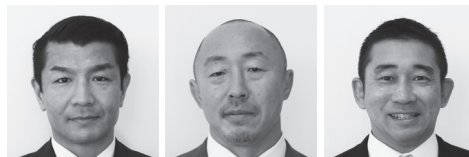
## キックボクシングジム「Sports24」店舗拡大

マトリックスのマシンを導入し、フィットネスとの連携高める

Sports24 GM / NITOH 株式会社 代表取締役 宮園泰人氏 (左)

Sports24 代表取締役 武田幸三氏 (中央)

Sports24 大江 慎氏 (右)



「Sports24」は、キックボクシング選手として活躍していた宮園泰人氏がキックボクシングとフィットネスを融合させたジムとして、2019年に下北沢に1号店がオープンした。現在は、同様にキックボクシング選手だった大江慎氏、武田幸三氏とともに荻窪、八潮の3店舗を運営している。同クラブをオープンした経緯やキックボクシングへの思いについて聞いた。

### キックボクシングを取り入れた健康づくりのためのフィットネスクラブ

現役時代「小次郎」の名前で活躍していた宮園氏は25歳で引退し、不動産会社を起業。以降、人の役に立つ仕事を追求していた。

「ただ強くなりたい、勝ちたいという思いだけでキックボクシングを始めました。興行としてのキックボクシングに興味をもつと、自分たち選手は競馬の馬でしかないのだと感じ、引退を決め、ビジネスの世界に飛び込んだのです。事業を行うなかで、健康寿命と生涯寿命の間が短いほど人生が豊かだということに気づきました。健康寿命を延ばすためには運動が必要ですが、運動する機会が減っています。自分自身の経験から、キックボクシングは全身運動ができてよいのではないかと考えました。さらにキックボクシングにこだわらず、フィットネスやヨガなども



提供したいと、Sports24をオープンしました」(宮園氏)

当初から多店舗展開を視野に入れており、'20年6月には2号店となる荻窪店をオープン。以前から親交あり、キックボクシングの指導や格闘技専門チャンネルの解説などを行っていた大江氏を運営メンバーとして誘った。

「長く指導に携わっていましたが、格闘技ではなくスポーツのひとつとしてジムを展開するということに共鳴しました。格闘技ジムというと怖いイメージがあるかもしれませんが、女性をメインターゲットにしたきれいなジムで、始めやすいものです。私自身もこの仕事を通して新たなことを学べるのではないかと考えています」(大江氏)

'20年12月には武田氏がFCとして八潮店をオープン。ウエイトトレーニングマシンを導入したりヨガのプログラムを展開したりと、顧客層の拡大につながっている。

「私は引退後、俳優をやりながらキックボクシングの大会などを開いていました。以前から、自分で格闘技に特化せず多くの人が健康になれるようなフィットネスクラブをつくりたいと思っていました。宮園さんが成功しているを知っていたこと、私自身はビジネスについてあまり知識がなかったことから、FCとして運営することにしました」(武田氏)

三氏は'90年代後半～'00年代前半にキックボクシング選手として活躍しており、試合を通じてつながりがある。現役時代にはビジネスの話をするとはなかったが、お互いの信頼関係はできており、「多くの人を健康にしたい」「キックボクシングを広めたい」といっ

た思いを共有できたことから、オープンまでとんとん拍子で進んだ。

### 30～50代女性がメインターゲット 身体の変化と生活の質向上を実感できる

同クラブはキックボクシングジムでありながら、女性や子どもをターゲットにしている。格闘技ジムはたくさんあるが、女性が入りやすいところは少ない。競技としてのキックボクシングではなく、運動として提供すると考えたときに、女性にもニーズがあると考えた。

「女性の方の多くは、人生のなかで本気で殴ったり蹴ったりという経験がないと思います。そこに興味をもって始めて、その感触にハマる方が多いようです。気持ちいいのです。目的は、7割以上がダイエットで、そのほか健康維持、ストレス発散などです。3ヶ月ほどで5kgぐらい変わります」(宮園氏)

「30～50代の女性は仕事や家事、育児などでストレスフルな方が多いと思います。殴る・蹴るということは人間の本能に基づいた行動ですので、意識をしなくてもストレス発散につながります。また、運動することで睡眠や食事の質も上がり、その後の仕事のパフォーマンス向上につながることもあります。身体が変わる、生活の質が上がるということにつながっていると思います」(大江氏)

また、あまり馴染みがないことから高齢者の会員さまは少ないが、認知症予防への効果も期待できる。

「高齢者だけでなく、若い会員さまでも左右の殴る・蹴るが言った通りにできないなど、自分の身体をうまくコントロールできない人が多くいます。自分が思い通りに身体を動かさないこと



荻窪店



八潮店

を知るだけでも意味がありますし、考えながら身体を動かすことは脳への刺激があります。続けるうちにだんだん身体が動くようになることを実感できると思います」(武田氏)

### 費用対効果が高く、女性も使いやすいマトリックスのマシンを導入

現在運営している3店舗とも、乗降者数、居住者数が多い地域だ。ターゲット層に合わせて、内装は白を基調に清潔感のある雰囲気になっている。

また、ウォーミングアップとして有酸素運動を取り入れるためにマトリックスのトレッドミルとクライムミルを導入している。これに加え、八潮店は限られたスペースでも活用できるストレンダス、Versaシリーズ4台と、ハーフラック、ダンベルを導入した。

マトリックスのマシンを選んだ理由は、第一に費用対効果が高いこと、第二に女性も使いやすいことだ。

「何社か見に行き使わせてもらうなかで、もっとも費用対効果が高いと思いました。クライムミルは、使いやすく効果が出やすいため、特に女性はハマる方が多いです。ボクシングではウォーミングアップに外を走ったり縄跳びをしたりすることが多いのですが、クライムミルは発汗作用もあり、効果が早いので皆さん続けやすいようです。短時間で消費カロリーが高いため、回転が速いことも経営的にいいですね」(宮園氏)

八潮店はヨガプログラムも展開してフィットネスの要素を強くし、20～40代の女性が入りやすくしている。会員さまの2割程度はキックボクシング以外の運動を行っているという。

### F2層メインに3店舗計約1,000名子どもの運動能力向上にも効果

現在の会員数は3店舗合計で、

1,000名程度。店舗によって多少異なるが、男女比はおおよそ4:6、30～50代が多い。ボクシング未経験者が8割程度だが、6割程度はフィットネスクラブ経験がある。来館頻度は週2、3回程度。

「一般的なフィットネスクラブにはもっと様々な運動コンテンツがありますが、Sports24ではキックボクシングが中心ですから、当然キックボクシングに興味があって入会する方が多いです。全身運動で筋力アップにも運動能力向上にも効果があり、聞いたことに応じて身体を動かすことは脳トレにもなります。そのようなことも含めて、子どもから高齢者まで心身の健康によりサービスを提供していきたいと思っています」(大江氏)

子どもの会員数はまだそれほど多くないが、親子クラスなど一定のニーズは感じられるという。

「キッズクラスは、テレビゲームなどあまり身体を動かさない遊びが主流になっていることから、身体を動かす機会をつくるために保護者の方が入会させるケースが多く見受けられます。親子クラスの目的は、親は子の成長を見る、子は親の背中を感じることです。忙しい親が増えているので、親子交流の機会にもなっていると思います。また、キックボクシングは全身を使い、難しいコンビネーションができるようになるので、運動のパフォーマンス能力が向上します。幼少期に何かひとつのスポーツを行うのではなく、全身運動を行うことで運動能力が向上させることのニーズも高まっていると思います」(宮園氏)

八潮店では、これに加えて空手のクラスも設置し、挨拶や礼儀を学ぶ場にもなっている。

### 健康寿命延伸とキックボクシング普及に貢献することが目標

宮園氏は、今後首都圏を中心にまずは10店舗展開することを目標としている。

「このかたちをベースに、ニーズに合わせて提供する内容を変えていきます。アプリの開発も行っているんで、それと連動したトレーニングメニューの開発や、岩盤浴やサウナを併設したような施設なども考えています。また、FCでの展開も考えているので、武田さんのようにこのビジネスや理念に共感してくれる人がいれば、首都圏に限らず、増やしていきたいです」(宮園氏)

三氏に共通する想いは、キックボクシングの普及と健康寿命の延伸に貢献することだ。

「私はキックボクシングの大会運営にも携わっているんで、選手が引退後に食べていける仕組みをつくりたい思いもあります。フィットネスクラブを運営することで、雇用の創造にもつながります。地域に密着して、住民の健康づくりをサポートすると同時に、育った選手を応援してもらいえる流れをつくれたらよいと思っています」(武田氏)

一方、大会に出たい人と一般的な運動をしたい人が同時に行うことは難しいという課題もある。別ブランドを設けることも視野に入れている。

「そもそも、現状、格闘技選手として生活できている人はほとんどいません。技術とスター性を兼ね備えた選手を育てると同時に、メディアを通じて運営の構造を変えていくことも課題です。その土台づくりもできたらよいと思います」(大江氏)

「レジャーとして、より多くの人にキックボクシングの面白さを知ってほしい思いもあります。平和になればなるほど格闘技は普及するといわれていますから、本能的な欲求として高いと思います。一方で、最終的な目標は、より多くの方が運動習慣をつけ健康になることです。そのための方法として、キックボクシングを選択しています。それ以外にもよいカリキュラムがあれば取り入れてきます」(宮園氏)